

JIS規格鋼板合格品使用
消防法適合品

火気厳禁

ガソリン携帯缶

第四類 第一石油類 危険等級Ⅱ

1000ml
TG-20 20缶 SUS-20
TG-10 10缶 SUS-10
■姉妹品 YG-20・YG-10

この度は、YAZAWAガソリン携帯缶をお買い上げ
いただきありがとうございます。

ご使用前には本説明書をお読みの上、記載事項を
守ってご使用下さい。



使用上の注意

- 容器の規定容量以上は入れないで下さい。
- タンクは給油口が上向きになるように常に平らな場所に置いて下さい。
- 油もれ防止のために、タンクキャップ、エア調整ネジ、給油ノズルは確実に締め付けて下さい。
- タンクキャップを外すときは、先ず、タンクを上向きに平らな場所に置いてから、エア調整ネジをゆるめ、中のガソリンがこぼれないことを確認して下さい。
- タンクを携帯、移動したりした場合は、先ず、エア調整ネジをゆるめ、タンク内の圧力を調整してから、再びエア調整ネジを確実に締めして下さい。
- タンクキャップ、エア調整ネジ、給油ノズル、Oリングのバックリングが劣化したり、破損したりした場合は、油もれによる危険がありますので、部品単体で交換して下さい。
- タンクの保管には、内容物の有無にかかわらず、直射日光が当たる場所、火の近くや転倒しやすい所、密閉した車内、室内などには置かないで下さい。
- 空のタンクを長期間保管する場合には、エア調整ネジをゆるめておいて下さい。
- 長期間使用しなかった場合は、タンク本体、タンクキャップ、エア調整ネジ、給油ノズル、Oリングを点検し、それぞれの部品に異常のないことを確認した後、使用して下さい。
- 自動車等エンジンやモーターなど動力がついている物に給油する場合は、動力を停止しておこなって下さい。
- 子供の手の届かない場所に置いて下さい。

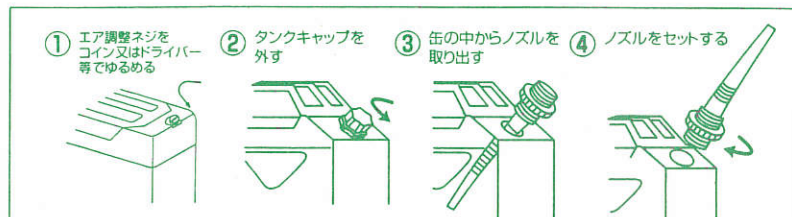
● 誤った使用・火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変・公害・塩害などによる故障および損傷については、如何なる責任も負いかねますことをご告知下さい。

ガソリンの携帯には鉄製容器の使用が義務づけられております。〈消防法第16条〉



注油の手順と注意

- タンクを一旦給油口が上向きになるように常に平らな場所に置いて下さい。
- 先ず、①エア調整ネジをコイン又はドライバー等でゆるめ、その後、②タンクキャップを外して下さい。又、さらに③給油ノズルのネジを回すと、給油ノズルが缶の中から一緒に出てきます。
- 給油ノズルはセットされていますので、④そのままノズルが上を向くよう逆さにしてネジ部を確実に取り付けして下さい。
- 給油ノズルがまっすぐになっている状態で、注油を行って下さい。



使用後の注意

- タンクキャップとエア調整ネジが確実に締め付けられていることを確認して下さい。
- タンクをゆすり、タンクキャップとエア調整ネジと、給油ノズルネジ部分からもれのないことを確認して下さい。

取替部品

タンクキャップ



TG 20用T-1
TG 10用T-2

エア調整ネジ



T-3

給油ノズル



TG 20用T-4
TG 10用T-5

タンクキャップ用
Oリング



T-6

ガソリン（軽油など）の保管上のご注意

1. ガソリン（軽油）は引火性（着火性）の高い危険物です。火の気が無く、温度変化のない、直射日光を避けた安全な場所で保管してください。
 2. 車に燃料を給油する際、携帯缶に保管した燃料から先に給油してください。
 3. 小出し分けなどして空気（酸素）に触れる機会が多いと、品質の変化が早まりますので、できるだけ一回に補給してください。
 4. ガソリン（軽油など）を長期間保管すると品質が変化することがあります。
 5. 品質が変化すると燃料としての役割がなくなりますので、早めに使用してください。
 6. 携帯缶が空になったからと言って「裸火」は絶対に近付けないでください。
 7. 車に搭載できるのは、金属製の携帯缶で、22リットル以下です。
 8. 車に搭載する場合には、携帯缶をしっかりと固定してください。
 9. 車に搭載した携帯缶から給油する場合、若しくは携帯缶へ給油する場合には、車から携帯缶を地面に降ろし、しっかりと接地したことを確認してから給油してください。（車に搭載したまま給油しますと、静電気の火花放電によりガソリン蒸気に着火する恐れがありますので大変危険です。）
 10. 携帯缶は亜鉛メッキ鋼板を使用しておりますが、使用環境・使用状況などによりご購入後1年ほどで錆が発生する場合があります。給油する前に給油口より携帯缶内部の状況を確認し、錆など発生している場合には携帯缶の使用を中止してください。
 11. 内圧の変化により変形の恐れがありますので、時々エア調整ネジを緩め缶内の圧力を調整してください。
 12. ガソリン携帯缶にガソリンなどを入れて移動する場合には、タンクキャップ・エア調整ネジをしっかりと締めた状態で、ガソリン携帯缶をゆっくりと傾けていただき、タンクキャップ・エア調整ネジ・携帯缶本体より漏れの無い事を確認してから移動してください。万一漏れのある場合には使用を中止してください。
- ガソリン携帯缶を工場から出荷したときの状態は、タンクキャップ・エア調整ネジがゆるんだ状態で出荷しております。初めてガソリン携帯缶をご使用になられる時は、しっかりとタンクキャップ・エア調整ネジを締めてください。